

事業シート(概要説明書)						
仕分対象事業名(個別事業名)		パークアンドライド等実施PR委託				
中事業名		05 交通環境整備事業	担当部・課名	都市整備部交通政策課		
総合計画上の位置付け(分野名)		総合交通	担当名	交通政策担当		
事業開始年度		平成13年度	根拠法令	鎌倉地域地区交通計画		
実施方法		直接実施				
		業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: (株)JTBパブリッシング他)				
		補助金〔直接・間接〕(補助先:)		実施主体:)		
		貸付(貸付先:)		その他()		
事業概要	目的 (何のために)	パーク&ライド、鎌倉フリー環境手形を利用してもらうことにより、交通渋滞の解消を図る。				
	対象 (誰・何を対象に)	来訪者等				
	事業内容 (手段、手法など)	パーク&ライドは、観光スポットが集中している鎌倉地域周辺の既存駐車場に車を置き、江ノ電等の公共交通に乗り換えてもらうもので、駐車場と公共交通をセットで利用することによる料金割引サービスも実施している。鎌倉フリー環境手形は、首都圏からの来訪者が、自宅からJR、小田急を利用し、観光スポット巡りも江ノ電等を利用してもらうもので、全て公共交通を利用することによる料金割引サービスも実施している。当該仕分対象事業のうち、「特典ご利用の手引き」は、観光案内図や協賛寺社等の特典サービスが記載されているパンフレットで、利用者全員に配布している。「旅行情報誌へのPR記事の掲載」は、年間発行部数20万部の情報誌に年1回掲載している。「案内看板」は、利用できる4カ所の駐車場へ誘導するためのものである。				
	事業の必要性	パーク&ライド等は、駐車場経営者、交通事業者の協力(利用料金割引を含む。)及び、寺社、店舗等の協賛(利用者への特典サービス)を受けて実施している。このシステムを多くの人に利用してもらうためのPR経費を負担することは、施策を進める上で必要である。				
コスト	平成22年度		人件費内訳		従事職員数	
	事業費	2,660 千円	}	職員構成		平均人件費 ×従事職員数
	人件費	3,508 千円		担当正職員	3,508 千円	0.4 人
	総計	6,168 千円		臨時職員他	千円	人
事業費 (財源内訳・ 単位千円)	年度	総額	補助対象事業の全体経費に対する 市の負担(支出)割合		平成22年度予算の財源内訳	
	H19(決算)	2,289	-		国補助金	0
	H20(決算)	2,675	-		県補助金	0
	H21(決算見込)	2,438	-		起債	0
	H22(予算)	2,660	-		一般財源	2,660
平成22年度 事業費内訳		「特典ご利用の手引き作成」 493,500円 「PR記事作成掲載」 1,197,000円 「案内看板作成」 969,500円				

活動実績	【活動指標名】 / 年度実績・評価	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	パーク＆ライドの利用台数	台	10,513	11,939	13,078
	鎌倉フリー環境手形の利用者数	人	11,194	11,492	14,253
	利用合計		21,707	23,431	27,331
単位当りコスト (事業費/活動指標)	事業費 / 利用合計	円	105	114	89
成果目標 (現状の成果及び今後どのようにしたいか、定量的な評価で示す)	<p>平成13年度の事業開始以来、利用日の拡大や、利用駐車場の拡大に努めてきたところ、利用者は年々増加傾向にあり、徐々に施策の浸透が図られている。しかしながら、このシステムだけでは、根本的な渋滞解消に至っていない。</p> <p>現在は、国道134号沿いの駐車場のみとなっているが、鎌倉地域での流入口での駐車場を開設し、流入交通の減少を図るとともに、鎌倉フリー環境手形の販売方法等も検討し、より利用し易いシステムの構築を図る。</p>				
成果実績 (成果指標の目標達成状況等)	【成果指標名】 / 年度実績・評価	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	利用駐車場箇所数	カ所	4	4	4
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<p>渋滞解消のための交通需要管理施策としてパーク＆ライド等の施策が導入され、システムの見直しや利用促進に努め、利用者は年々増加している。</p> <p>新たな駐車場の設置等により利用し易い環境づくりに努めて行くとともに、利用促進のための広報方法についても検討し、引き続き市内交通量の減少に努める。</p>				
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	通年での実施は、他に事例がない。				
特記事項 (事業の沿革等)	平成7年度に鎌倉地域地区交通計画を策定する「鎌倉地域交通計画研究会」が発足、交通需要管理施策を主体する「20の施策」を検討し、3回の交通社会実験を経て、提言された施策の一つとして取り組んでいる。				